

# 頸北斎場は当面存続へ 上越市が新斎場建設で新たな方針

注目すべきニュースが入りました。上越市は2日、新上越斎場建設事業について新たな方針を発表し、頸北斎場を当面残すことを明らかにしたのです。

この日の方針のなかで上越市は、①新上越斎場建設事業と頸北斎場の今後のあり方については、別の問題として切り離して検討する、②頸北斎場については、適正な施設管理の下で更新時期を迎えるまでの間は、維持管理に努め運営する、としました。

今後、新上越斎場の規模をどうするか、頸北斎場について、なぜ「更新時期を迎えるまでは」としたのかなど議論が必要ですが、とりあえずは新上越斎場の建設とともに頸北斎場を廃止することはなくなりました。

上越市は昨年10月、新斎場建設について、居多で新しく建設するとともに、その供用開始とともに、頸北斎場、経塚斎場の利用者（中郷、板倉区）も新斎場に集約する方針を打ち出しました。これには日本共産党議員団など一部市議、柿崎、大潟、吉川3区の地域協議会などが猛反発、多くの関係住民からも「頸北斎場を残してもらいたい」「経塚斎場を居多と同じ料金で使えるようにしてほしい」という声などが上がっていました。



今回の新たな方針は、世論と関係住民の運動がもたらした。

らしたもので、一步前進です。私は頸北斎場をずっと存続させるため頑張ります。（写真は先月22日、頸北斎場を視察する共産党議員団）

## 山鳥毛フォーラム、税金を使うのはだめかなど議論



国宝太刀、

山鳥毛フォーラムが先月26日、市民プラザで開かれました。関心は高く、100人ほどが集まりました。フォーラムを主催した今井孝さんは、「税金を使っているのか」など3つの開催動機について語りながら、賛成の人、反対の人が対話していくことの大切さを訴えました。パネリストは賛成、反対または疑問に思う側からそれぞれ3人が意見を述べ合い、「山鳥毛は観光の基幹産業化に欠かせない」「イベントの他に目玉になるものがない。山鳥毛は人を寄せる必要なものだ」「買うことの過程を市民が納得しているかどうか。税金は他にも使うことがあるのかなと思っている」「山鳥毛はあればいいと思うが、税金を使うことには絶対反対だ」などと発言しました。その後、「税金で買うのはだめなのか」などいくつかの論点で議論がかわされました。また、参加者からの質問を紙に記入してもらって答える形式でも、「まず1億、2億のお金を集めて、それからでもいいのではない



【マンサク】マンサク科の落葉小高木。今年は2月24日に開花しました。漢字で「万作」とか「満作」と書きます。ところによって「シイナバナ」と呼ぶところもあるとか。マンサクとは正反対の意味になりますね。

か」「上杉謙信の義の心とはなんぞや」などの質問が出され、賑やかな議論が交わされました。賛成、反対の人がそれぞれの意見を聴いて考える、いい会になりました。

## 「灯の回廊」、さらに伸びて、より美しく

いまや上越市の冬の最大のイベントとなった「灯の回廊」。今年は安塚、大島、浦川原、牧区に加えて高土地区のみなさんも参加し、これまででは最大規模の光のイベントとなりました。

今年は天候にも恵まれました。新雪が降って、その後は晴れ。絶好のイベント日和となりました。私も時間の許す限りまわり、写真を撮りまくり、おいしい物をたくさん食べさせてもらいました。写真は大島区菖蒲の飯田邸です。



はしづめ法一の  
活動レポート

No.1797 2017.3.5

発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず

Tel 025-548-3628

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp

URL <http://www.hose1.jp/>



ブログ  
「ホーセの  
てある記」は  
← こちら

橋爪法一

検索

# 春よ来い

## 第四四五回 天明山が見える道

大島区板山の従弟のところから家に戻ると、ふと思つたのです。角間から川谷に抜けるルートで帰れば、母がまた何か新しい昔話をしてくれるかもしれない。その勘はびたりと当たりました。

先日、十二月に亡くなった伯母の位牌に手を合わせてこようと母と一緒に大島区板山を訪ねたときのことでした。

帰り道、角間を過ぎ、大島区と吉川区の境がもうすぐというところで、車の前方に天明山の姿が見えました。

「ありや、天明山だ」と母が言うので、「おまんが小学校の頃、遠足に来た山だろ」と確認したところ、「あそこを越えて鯨波へ行つたがど」と、これまででない話を始めました。

遠足の話はこれまで何度か聞いていましたが、柏崎市の鯨波の名前が出てきたのは今回が初めてでした。思わぬ展開に私は耳をすませました。

母によると十九歳の時、大島区田麦のUさんという旦那さんの家にウドを持って行つたところ、その家のお母さんに、「おまんはいい娘だから鯨波の家に奉公してくれないか」と頼まれたというのです。

東京は深川にあった日清製粉の会社役員の家で母が働きに行つたことは何度も聞いていたのですが、まさか、近くの鯨波にも行つていたとは……。ひよつとすると母の記憶間違いかと思つたのですが、その次に母の口から出てきた言葉を聴いて、「これは間違いはない」と確信しました。Uさんの家にウドを届けた時、「椿餅（椿の葉っぱに包んだ餡子入りの餅）を5個もらつたがど」という言葉です。よくもまあ、七〇年も前の細かい事を憶えているものだと感心してしまいました。

母によると、Uさんの家の嫁さんは鯨波にある下条（しもじょう）さんという家から田麦に嫁いだ人のようです。鯨波の実家は黒い板塀で

囲つてあり、近くには「なにわや」という旅館もあつたそうです。「なにわや」が本当にあつたのかとインターネットで調べたところ、確かにありました。母の記憶どおりでした。「なにわや」は漢字で「浪花屋」と書きます。

車は吉川区に入り、上川谷の久保地内を走りました。

母の記憶装置はここでも働き、「ここは直江津のK子さんの姉妹の人が嫁に行つた家だねか」とか、「ここらへんで子どもが学校に行くそつて雪崩に遭つたがど」と言いました。これらの話は私もすでに知っていることですから、「そいがだ」とすぐ答えました。

上川谷から下川谷へ行く道はほとんど下り坂です。合併した年の梅雨時期に直後に大きな土砂崩れが発生して県道が埋まってしまった現場近くのカーブで、中学校時代の同級生Tさんとバッタリ会いました。

Tさんは、助手席に乗つた母を見るなり、「わー、お母さん、元気だね、いかつたね。足、大丈夫かね」と母に声をかけてくれました。昨年十一月に、母が転んで腰を痛め、歩けなくなつていたことをTさんは誰かに聞いていたのだと思います。続いて私の顔を見て言いました。「やっぱ、おふくろつていいよね。女衆つて、九〇を過ぎるとみんないい顔してるよね」と。

Tさんはひと月前にお母さんを亡くしたばかりです。私の母の姿を見て、自分の母親のことが思い出されたのでしょうか。「ああ、きょうはいいい日だった、来たかいがあつた」と喜んでいました。

天明山が見える道は、母が旧旭村から旧源村の尾神に嫁いで以来、七〇年ほどの間に度々通つた道です。でも雪のあるときに通つたのは今回が初めてかも知れません。鯨波の思い出話を聴いたので、今度、母を連れて鯨波に行つてみようと思います。

## オスプレイの参加中止は求めず…上越市長などが北関東防衛局に要望書

上越市長、上越市議会議長、妙高市長、妙高市議会議長は2月27日、連名で「関山演習場における日米共同訓練の概要公表」を受けての要望書を北関東防衛局に提出しました。今回の訓練

に伴う要望書の提出は3回目です。

要望書では「オスプレイを始めとする航空機が訓練に参加することによる騒音問題や万が一の墜落事故への懸念などが、住民の大きな不安感につながっている」としながらも、「児童生徒の通学時間や夜間などの訓練飛行に特段の配慮を」「訓練内容についても最大限の情報提供を」求めるにとどまっています。

2月9日の2回目の要望書（この時は上越市長と妙高市長の2者で要望）では、「過去の訓練実施の際に事故等が発生したことを踏まえ、同じことを繰り返すことのないよう綿密な検証を行う」ことなどを求めていました。それと比べると、今回の内容は明らかにトーンダウンしています。

2月24日の上越市議会各派代表者会議で、私は、「事故についての十分な検証が行われていない中での訓練実施は問題だ。中止を求める内容にしてほしい」と訴えていましたが、こういった内容では

上越、妙高市など地元住民は納得しません。多くの国民から「何故、オスプレイの訓練中止を求めないのか」という批判の声が上がることでしよう。

なお、写真と同文の要望書が陸上自衛隊第十二旅団には郵送により送付されたということです。

### 上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	2月22日(水)	3月1日(水)
上越南消防署	0.043	0.040
上越北消防署	0.050	0.050
新井消防署	0.040	0.050
頸北消防署	0.050	0.040
頸南消防署	0.053	0.050
東頸消防署	0.050	0.057
高士分遣所	0.050	0.043
名立分遣所	0.053	0.053

